

浄土真宗東本願寺派野中山正山寺

# ほつ寺通信

第5号

平成26年10月1日  
<発行責任者> 野正  
<副住職> 藤野慶

## 報恩講

### 11月9日(日曜)

### 午後1時から3時まで

例年通り、浄土真宗の門徒にとつてとても大切な報恩講が厳修されます。法要後、ご好評頂いております浅草・緑泉寺の青江覚明先生のご法話があります。仏縁を深めるためにも是非お誘い合わせの上、ご参詣ください。また、駐車場には限りがありますので、なるべくバスをご利用ください。(以下、バス時刻表)

#### ■町田駅バスセンター発

小山田行

(行き) 12時12分  
(帰り) 3時10分

#### ■淵野辺駅北口前発

小山田はなみずきの丘行

(行き) 12時20分  
(帰り) 3時18分

※小山田停留所でお降り下さい。

### 副住職の仏々(ぶつぶつ)

皆さん、こんにちは。お彼岸を過ぎますと本当に過ぎしやすくなりますね。と言っている内に、あつという間に寒さがやって来ますので、是非この行動しやすい時期を逃さず、やっておきたいことを(重い腰を上げて?) やってみてはいかがでしょう。行動しなければ何も始まりません。すぐに結果が出なかつたとしても、長い目で見ればより良い結果に繋がるはずですし。(自分への戒めも込め) さて、今回寺報を始めて一年を超え、正山寺の一通りの年中行事の説明を終えましたので、何を書くか思案のしどころでしたが、知ってほしいこと、知らないことや誤解していることの多い浄土真宗の仏事について少しづつ触れていこうかと思っています。お楽しみに。

### お仏飯について

お仏飯と言えば、毎朝お仏壇へお供えするものとご存じの方も多いと思います。しかし、それが毎日欠かさずとなると、面倒だと思ってしまう方もいらっしゃるのではないのでしょうか。実際お供えしても食べて頂ける(減る)訳でもなく、仕舞い忘れてカチコチになつて捨ててしまつたなんて話もチラホラ聞きます。それではここで、仏の食事について、真宗事物の解説(西原芳俊著)より引用します。

「食ありといえども、実は食するにはあらず、ただ色を見、香を聞いて意にもつて食となすれば自然に飽足す」とあります。

ただ、ご飯の色・香を感じて満足されるのです。究極の少食でしょうか?なんと有り難い存在かとも思います。では、なぜご飯をお供えするのでしょうか。さらに、引用します。

「我らの命は飲食の恩なり、この飲食の恩にて、命ながらえて、めでたき仏法を聞くなり。しかれば行者の不死の薬の飲食なれば、

わが重んずる所の飲食を如来にさしあぐるなり。」とあります。

なるほどと思わしめる名言ですね。ただ、如来(仏)のためにさしあげるという意味ではなく、自分の命を支えてくれている命あるものの恵(食べもの)に対して、感謝の気持を如来に供養するので、このことが理解出来ていけば、下げたご飯を捨てたりしない(本来、有り難くお下がり頂くものです)でしょうし、食べもののおりがたみを感じ自然と「いただきます」「ごちそうさまでした」と手を合わすことが出来るのではないのでしょうか。このご時世、「自分で買った食べものなんだから、手を合わす必要なんてない!」という方もいらっしゃるようですが、命ある食べもののお陰で生きながらえられていることを思い起こして頂きたいものです。

【Q&A】朝食がパンの場合は? もうお分かりかと思いますが、パンも「命あるものの恵」と考えれば何等問題ありません。何より感謝の気持ちを仏様に供養するお気持ちが大切なんです。

・お仏飯をお下げする時間は？  
仏様がお食事されるのは正午とされていきます。さすがに正午ではお下がりをおいただけません。本山では午前10時といわれています。私は一般家庭では朝食後少ししてでよいと思っております。(但し私見)

### 記念事業の進捗

前回の寺報にてお知らせした開山四百年記念事業についての進捗状況をお知らせします。多くの有縁の方々から概ね賛同を得られ、現在(9月中旬)五百件近い回答を得、寄進の見積り総額は千七百万円を超えました。誠に有り難い限りですが、まだ回答(ハガキ)を頂いていない方もいらっしゃると思いますので、この場を借りて是非再考して頂きますよう重ねてお願い申し上げます。

現在、施工業者とのやり取りや、当日のスケジュール(差定含む)の検討をしています。当日のスケジュールは、午前・午後の二部構成とし、間に演劇を入れるなどお楽しみ頂ける内容にしたいと目下思案中です。ご期待下さい。

### 境内整備報告

境内整備の一環として、本堂正面から見て右側墓地の方々の利便性向上の為、境内右側端に桶置きと水道設備を設けさせて頂きました。どうぞご利用下さい。



※水道の閉め忘れにご注意ください。また、桶の整理・ゴミの分別にご協力下さいますようお願いいたします。

また、頂上付近の墓地への水道設備のご要望もございましたが、立地環境条件から設置が難しい状況にあります。ご了承ください。

### 総交代報告

去る8月に、総代であられる細谷 清氏が、70歳にてご逝去なされました。ご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表します。これにともない新総代として、林 定男氏が就任されましたのでご報告させて頂きます。どうぞよろしく願います。

### 副坊守のコラム

まず最初に、四百年記念事業に關して、多くの方々にご賛同頂き、深く感謝しております。今回の件で、多くの檀家様に支えられていることを、改めて実感致しました。

さて、我が家の息子も、少しづつ言葉が増えてきました。二歳を超えてから「ふたつ」や手振りを添えて「どうぞ」と接客しています。また、「ただいま！」は言えません「おかえり！」がお気に入りのお返事です。母も、外の仕事を終え、疲れて帰ってきてその言葉を聞くと、癒されるといいます。

檀家様でご高齢の方が、お寺で会う度に「おかげさまで」と周りの方に感謝している様子は、日々感謝の気持ちで過ごされ、素敵な歳の重ね方をされているようで、感激するとともに、心暖まる思いで拝見しておりました。

言葉が発する側も受け取る側も、お互いが心優しく穏やかになる、そんな言葉を子供にも教えず、自分でも意識していきたいと思えます。

### あとがき

心配していた開山四百年記念事業の趣意書に対する反応ですが、概ね好意的に受入れて頂いているようで本当に有り難い限りです。ハガキの伝言欄にも、記念事業に対する思いや、この寺報や息子の成長を楽しみにしている等、嬉しいお言葉を多数頂き、寺報作成の励みになるとともに、期待を裏切らないよう粛々と計画を進めていきたいと思いを新たにしています。今後ともどうぞよろしく願います。

合掌

寺報「ほっ寺通信」第5号

## 浄土真宗東本願寺派 正山寺

住職：藤野慶正(発行責任者)  
副住職：藤野慶正  
住所：〒194-0201 東京都上野区山手1-5-4  
電話：042-797-1446  
FAX：042-797-9233  
URL：<http://shousan.net>  
メール：[info@shousan.net](mailto:info@shousan.net)